

サープレィ足洗温泉について

サープレィ足洗温泉は、石川県の社会福祉法人佛子園が提唱する「ごちゃまぜコミュニティの創出」をお手本に計画が発起しました。ごちゃまぜとは、世代も、障害の有無も超えて共生する状態を指します。地域に溶け込み、地域に開き、地域に愛される施設を目指すことで、それぞれの自立を支援することにも繋がっていることが実証されてきています。

例えば、施設での催しなどが地域住民の声から発端することもあれば、障害のある方が施設内で困っていたとしたら、施設側がすぐに手をさしのべるのではなく、利用者どうしで助け合う関係性が築かれていたりなど、施設側が主体ではなく、利用者が主体で施設が活用されている事例が多く見られます。

サープレィ足洗温泉においても、福祉施設として特別な存在に扱われるのではなく、地域の皆さんが主体となるような場所づくりを心掛け、居心地の良い憩いの場となる施設を目指しています。

当施設は、現在整備中である目の前の足洗湯公園との繋がりを強く意識し、公園に向けてコの字状に開いた平面計画としました。コの字のくぼみには大きな中庭を配置して、ホールや廊下、食堂から中庭と公園を広く見通せる関係性をつくっています。中庭で過ごす利用者をそれとなく誰かが常に見届けているような状態となるように意図しました。

また、サープレィ足洗温泉には様々な居場所があります。遊歩道のある中庭、公園を向いた足湯、フィットネススペース、中庭に開かれたエントランスホール、くの字の幅広い階段、内風呂、露天風呂、ゆとりのある廊下、多目的スペース、奥行の深いテラス、開放感のある食堂、中庭をみる特等席カウンター、公園へ開かれた2階ホール、家族風呂、そして足洗湯公園。日当たりの良いところもあれば、暗いところもあり、大勢でにぎわうところもあれば、静かにくつろげるところもあります。自分の体調や気分によって好きな居場所を見つけるようにして、愛着をもって利用していただけることを願っています。

福祉施設が地域社会に開かれた魅力ある場所として認知され、まちづくりの核となっていくためには、建築デザインは重要な要素です。デザインは環境をつくり、環境はサービスやケア、居心地と密接に結びついているからです。

地域に開かれた福祉施設ができることで、将来的に街のシンボルとして地域の人たちに愛され、親しまれる場となることを心より期待しています。さらにはサープレィ足洗温泉の誕生を機に富山県内でも地域住民が主体となるボーダレスな福祉環境づくりが一層進んでいけば幸いです。

2021.11.15

株式会社ナカサイアーキテクト